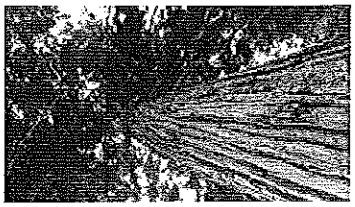
「七百せいの大すぎ」

「おーい　ひろし　おじいちゃんと　こおり山こうえんに　さんぽに　行かないか。」
「うん　おじいちゃん。こおり山こうえんなら、せいかつかの　ぐんきょうで　行ったことがあるよ。学校の　すぐうらだよ。」
ひろしは　なんだか　わくわくしてきた。
こおり山こうえんに　つくと　まっさきに　てんぽうだいく　がった。ひろしは、ここから見る　吉田の町が　大すきだった。

「ひろし。おじいちゃんより　もっと　おじいちゃんが　いるんだよ。すがじんじゃに　あいに行こうか。」
「すがじんじゃは　お正月に　行ったことが　あるけど・・。おじいちゃんの　おじいちゃんって　いなかったけどな。」
すがじんじゃに　ついたが　なにもなかった。ひろしは　すこし　がっかりした。
「これが、おじいちゃんの　おじいちゃんだよ。」
ひろしの　おじいさんは、にっこりして　大きな木の前に　立ちどまった。
大きな木が　目の前に　五本　あらわれた。



「うわあ。でっかい木だな。なんて　いう　名前の　木なの。」
「大きい　すぎの木だから　大すぎと　いうんじゃよ。」
「ひろし、この木は、なんさいだとおもう。」
「おじいちゃんの　おじいちゃんだから　百さい　くらいかな。」
ひろしは、じしんまんまんに　こたえた。
「はは　は。ひろし　この大すぎは　おじいちゃんが　子どものころから　ずっとここにあったんだ。ここで　友だちと　いつもよくあそんだもんじゃ。」
「なつの　あつい日も　ふゆの　さむい日も　たいようや　ゆきや　大あめにも　まけず　なんと七百ねんも　ここに　いきている　木なんじゃ。だから　七百さいじゃ。」
ひろしは、なんだか　ふしぎな　きもちになった。
「ひろし　おじいちゃんと　手をつないで　この木を　つかまえられるか　やってみよう。」
ひろしは　おじいちゃんとだったら　てを　つなげるかなとおもって　おもいきり　てをのばしたが　まったく　とどかない。おじいちゃんの　すがたは　この木で　すっかり　見えなくなった。
「ひろし　ゆっくり　大すぎのうえのほうを　見てごらん。」
青い空に　まっすぐ　一ちょくせんに　のびている　すぎの　てっぺんは、もう空に　とどきそうなくらいだった。大すぎのはっぱや　えだの　あいだから　たいようの　やさしい光が　さしこんでいた。
ひろしは　そっと　大すぎを　さわった。木のかわを　よく見ると　たてに　大きくわれ　そのわれ目に　ゆびが　はいりそうで　ぐっぐっとしていた。上のほうには　カナブンや　セミがたくさん　あつまって　楽しそうに　休んでいた。大すぎも　にっこり　わ

らっているように　見えた。
「おじいちゃんが　うまれる　ずっと　前から　この　吉田の町の　人たちや　この山に　すむどうぶつや　虫たちを　七百年ものあいだ　やさしく　見まもって　いるんじゃ。」
「この木たちを　見ると　なんだか　元気が　わいてくるんじゃ。」
おじいちゃんは、ゆっくりと　ベンチに　こしを　おろした。
「ひろし　ここから　見てごらん。五本の　大すぎが　話をしているように　見えんか。」
木の　ねもとの　まわりも　きれいに　はかれ　草一つない。ちいさな　人が　毎日きれいにして　まもりつづけていることを　おじいちゃんが　おしえてくれた。
ひろしは　しばらく　じっと　五本の　大すぎを　見ていた。

「おーい　ひろしくん。あしたの　土よう日　どこかく　あそびに　いこうよ。」
「どこが　いいかな。そうだ　みんな　すぐ近くに　とっておきの　場所が　あるんだ。みんなで　行って　みようよ。」

そういって　ひろしは、にっこり　わらった。

「七百さいの大すぎ」

年　組（　　）

おじいさんの話を聞いたあと、ひろしはじっと五本の大すぎをどんな気もちでみていたのでしょう。

自然 「７００さいの大すぎ 」

〔小学校低学年　主題：わたしがそだつ町　内容項目：４の（５）〕

授業展開例　－学習指導案（略案）－

（ア）主題名　わたしがそだつ町　４－（５）

（イ）ねらい　おじいさんの話や大杉に触れることにより，清神社の大杉に親しみを感じていく主人公の気持ちを考えることを通して，生活している吉田の町の植物や自然に愛着を深め，親しみをもとうとする心情を育てる。

（ウ）資料名　「７００さいの大すぎ」

（エ）学習指導過程

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点 （☆評価の観点）
導入	1　ここはどこクイズをする。	○　これは，どこにあるでしょう。	○　資料に興味や関心をもたせる。
展開	2　資料を聞いて考える。 ○　700 年もこの吉田に生きている大杉の話を聞いたひろしの気持ちを考える。	○　700 歳の木と聞いてひろしは，どんなことを思ったのでしょう。 ・大きな木だな。 ・700 年も生きている。 ・夏も冬も負けずに生き続けている。	○　清神社の様子や「700 年」がイメージできるように当時の人々の生活の絵を紹介する。 ○　最初がっかりした気持ちと対比させる。 ○　よしずで作った円周５ｍの幹を手で囲ませ，大杉の大きさのイメージをもたせる。
	○　大杉が地域の人に守られている話を聞いた後に，じっと大杉を見つめるひろしの思いを考える。	○　おじいさんの話を聞いた後，ひろしは，じっと５本の大杉をどんな気持ちで見ていたのでしょう。 ・なんだか気持ちがいい。 ・吉田の人は大杉を守っている。 ・これからも生き続けてほしい。 ・この木をこれからも守りたい。	○　ひろしの大杉に対する親しみや愛着の気持ちを，書く活動を通して気付かせる。
	○　友達に大杉を見せたいひろしの気持ちを考える。	◎　ひろしは，なぜ，清神社にみんなを遊びに誘ったのでしょう。 ・大杉の木とみんなで遊びたい。 ・友達に自慢の大杉を見せたい。 ・おじいさんから聞いた話をみんなに伝えたい。	○　「とっておきの場所があるんだ。みんな行ってみようよ。」と言うひろしと友達のやりとりを役割演技を通して，ひろしの思いに共感させる。 ☆　役割演技により，主人公の大杉に対する愛着や親しみについての共感的な理解を深めることができたか。
	3　自分の生活を振り返る。	○　身の回りにある古くから残っているものや，これからも守り続けたい吉田の自慢について話し合おう。	○　吉田町の伝統行事や地域の人の取組にも目が向くように補助発問をする。
終末	4　吉田の自然や文化をＶＴＲで見ながら，今日の学習を深める。	○　吉田の町や自然のＶＴＲを見よう。	○　吉田の町には，みんなを元気づけたり，大切に守り続けたりしたい自慢なひと・もの・ことがたくさんあることを感じさせる。

【参考資料】　小・中学校学習指導要領解説道徳編「第３章　道徳の内容」

４　主として集団や社会とのかかわりに関すること

【第１学年及び第２学年】
(5)　郷土の文化や生活に親しみ，愛着をもつ。

郷土とのかかわりに関するものであり，郷土の伝統と文化を大切にし，郷土を愛する心をもった児童を育てようとする内容項目である。主に，第３・４学年の４の(5)，４の(6)及び第５・６学年の４の(7)，４の(8)と深くかかわっている。

自分の育った郷土は，自己の形成に大きな役割を果たすとともに，一生にわたって大きな精神的な支えとなるものである。郷土との積極的で主体的なかかわりを通して，郷土を愛する心を育て，郷土をよりよくしていこうとする態度を育成する必要がある。

この段階においては，遊びや生活科などの学習を通して，家庭や学校を取り巻く郷土に目が向けられるようになる。このことを考慮して，郷土の自然や文化に触れ，人々との触れ合いを深めることで，郷土への愛着を深め，親しみをもって生活できるようにすることが大切である。

【第３学年及び第４学年】
(5)　郷土の伝統と文化を大切にし，郷土を愛する心をもつ。

この段階においては，特に地域での生活が活発になるのに伴い，地域の行事や活動に興味をもち，積極的にかかわろうとする態度を育てることが求められる。地域の人々や生活，文化，伝統に親しみ，それを大切にすることを通して，郷土を愛する心を育てる必要がある。

【第５学年及び第６学年】
(7)　郷土や我が国の伝統と文化を大切にし，先人の努力を知り，郷土や国を愛する心をもつ。

この段階においては，郷土を愛する心が日本全体に開かれたものへと発展し，国を愛する心が児童の内面から自覚されることが大切である。そのためには，郷土や我が国の発展に尽くし伝統と文化を育てた先人の努力を知り，自分もまたそれを継承し発展させていくべき責務があることを自覚し，そのために努めようとする心構えを育てる必要がある。

4　主として集団や社会とのかかわりに関すること

【中学校】

(8)　地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し，社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め，郷土の発展に努める。

今日都市化あるいは過疎化が進んでおり，そのために郷土に対する愛着や郷土意識が希薄になっている傾向がみられる。しかし，生徒にとって，地域社会は家庭や学校とともに大切な生活の場である。郷土によってはぐくまれてきた伝統と文化に触れ，体験することを通して，そこに住むことの喜びが生まれ，地域社会の一員としての自覚がもてるようになり，郷土を大切にする心や態度もはぐくまれる。また，このような郷土をつくりあげてきた人々への尊敬の念や感謝の気持ちも生まれてくる。郷土を愛し大切にするということは，長い間にわたって，今，自分たちが生活している郷土をつくりあげてきた伝統と文化，先人や高齢者たちの努力に思いを寄せ，そのことに対する感謝の心をもち，これを今後の人々のためにより発展させて引き継いでいくことである。

中学生の時期は，自我の確立を強く意識するあまり，ともすれば，自分が自分だけで存在していると考えがちである。このような傾向を考えるとき，自分だけで存在しているのではなく，「家族」や「社会に尽くした先人や高齢者」によって自分が支えられて生きていることを自覚し，それらの人々への尊敬と感謝の気持ちを深めることは極めて大切なことである。

指導に当たっては，多くの地域で，郷土意識や地域社会に対する連帯感が薄くなっており，こうした傾向が強まっている事実を考慮し，地域の人々との人間関係を問い直したり，地域社会の実態を把握させたりして，郷土に対する認識を深め，郷土を愛しその発展に努めるよう指導していく必要がある。また，地域社会に尽くし，自己の人生を大切にして生きてきた先人や高齢者への尊敬と感謝の気持ちをはぐくむよう指導の工夫に努めることも大切である。